

## 特集 新時代の人間の安全保障

# すべての人に 安全と尊厳を

### 恐怖、欠乏、尊厳

人間の安全保障は、人が紛争やテロ、犯罪、自然災害、感染症等の“恐怖”から自由になること、また、貧困、栄養不良、教育・保健等の生きるうえで必要なものの“欠乏”から自由になることを目指す。

自然災害や感染症によって貧困が深刻化して教育の機会が奪われたり、貧富の格差が治安を悪化させて紛争を再発させたりと、“恐怖からの自由”と“欠乏からの自由”とはたがいに結びついており、包括的な対応が必要になる。

さらに人間の安全保障は、人が単に生存するだけでなく、個人や社会の潜在能力を伸ばし、自由と可能性を実現すること、言い換えれば“尊厳”をもって生きる権利が保障された社会を目指している。

「人間の安全保障」が提唱されてから25年以上が経つ。

その間にますますグローバル化や技術革新が進み、世界は豊かさを増したが、新型コロナウイルスは、世界を取り巻く複雑に絡み合ったさまざまな脅威を顕在化させた。このような時代において、JICAは「新時代の人間の安全保障」を掲げ、その実現に向けてどのような理念をもち、行動を起こし、取り組みの手法を強化しているのか——人々が安全に暮らし尊厳をもって生きるための新しい方針と実践を紹介しよう。

### 人間の安全保障 (Human Security) とは何ですか？

「すべての人々は、恐怖と欠乏から自由になり、尊厳をもって生きる権利を有し、国際社会と各国政府は、その権利が保障された社会を創る責務を有する」とする理念です。

共同議長・緒方貞子さんの提言

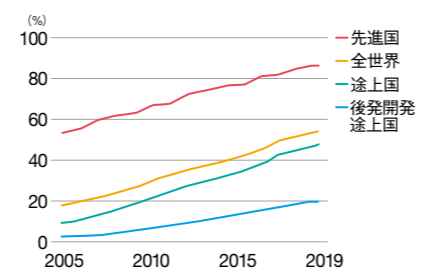
2001年に森喜朗首相の提案から創設された「人間の安全保障委員会」の共同議長として、国連難民高等弁務官を退任した緒方貞子さんが就任し、人間の安全保障の概念構築と国際社会が取り組むべき方針について提言した。安全保障の焦点を国家から人々へと拡大し、包括的な取り組みが必要であると強調。人間の安全保障は、「人間の生にとってかけがえのない中核部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること」と定義した。その後、2003年10月に緒方さんはJICA理事長に就任した。



デジタル格差

インターネットアクセスの状況

先進国と途上国間にある大きな格差



経済危機

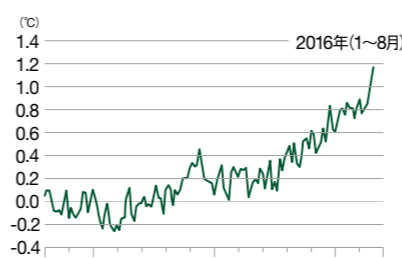
格差の拡大

環境汚染

気候変動

地球温暖化の進行

産業革命以前から約1.2℃上昇



自然災害

感染症

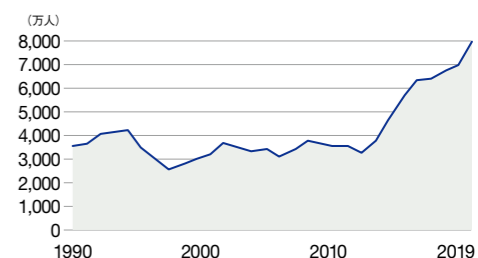
自由・権利の抑圧

紛争・テロ

難民の増加、難民状態の長期化

7,950万人

故郷を追われた人の数(2019年末時点)



多様化する 脅威に対応

“命、暮らし、尊厳”を守る

恐怖と欠乏をもたらす  
さまざまな脅威

「人間の安全保障 (Human Security)」は、1994年に国連開発計画 (UNDP) が「人間開発報告書」で取り上げて注目された考え方だ。2003年には国連人間の安全保障委員会が報告書「Human Security Now (安全保障の今日的課題)」をまとめ、その共同議長のひとりだった緒方貞子さんが JICA 理事長となった。それ以来、JICA は人間の安全保障の実現を目指して国際協力を実施している。

人間の安全保障が注目されて25年以上が経過したが、その重要性はますます高まっている。新型コロナウイルスの感染拡大は、多くの私たちの命をも脅かす「脅威」として私たちの前に現れた。コロナ危機によって困難な状況に追い込まれる人が増えたと見え、以前から社会・経済的な困難に直面していた人々にはより大きな影響を受けている。感染症以外にも、紛争やテロ、民族・宗教的少数者への差別や抑圧、貧困、栄養不良など、人々の「命、暮らし、尊厳」に対する脅威が多く存在している。さらに、最近になって貧富の格差の拡大、非感染性疾患の増加や高齢化がもたらす保健や社会保障制度上の課題、気候変動の影響で頻発・

激化する自然災害、デジタル格差の拡大、科学技術の進歩が社会に与える影響、自由・権利の抑圧など、新しい脅威も増えて複雑化している。こうした脅威によって引き起こされる「恐怖」と「欠乏」からすべての人が自由になり、尊厳をもって生きる社会を実現するのが、JICA の目指す人間の安全保障である。

新時代の課題への対応

JICA はこうした新しい時代に対応した人間の安全保障の重要性とそのあり方を確認しながら、さまざまな取り組みを進めている。人間の安全保障の考えが登場した1990年代には地域紛争が多発し、難民・避難民が急増したため、人間の安全保障はそのような文脈で注目されることが多かった。しかし紛争の再発を予防するには、和解の文化を育むことや法の支配を確立することも必要になる。また、人が尊厳ある生き方を実現するには、貧困、保健、教育の改善も不可欠だ。そのためには、公衆衛生につながる水、道路や電力といった基礎インフラも必要になる。今の時代には、頻発する自然災害から人々を守る防災や、より質の高い教育と人材育成などを通じてデジタル格差にも対応しなければ、人間の安全保障を実現することはできない。

一方、新しい時代だからこそ新しい解決方法も増えている。ITを活用したイノベーションや多様なパートナーとの協力によって、過去には解決が難しかった課題にも対応できるようになっている。たとえば、難民・避難民の母子の健康を守るための母子手帳がスマートフォンアプリになって使い勝手がよくなったり、遠隔地への医療サービスにスマートフォンやドローンが使われたり、新しく生まれた解決策が人間の安全保障を実現する後押しとなっている。

## 新時代の安全保障の実現に向けて

人々の“命、暮らし、尊厳”を守ることに貢献すること

### 行動原則

人々が自らの可能性を追求できるように、人・組織・社会の能力強化（エンパワメント）に協力すること

脅威に晒された人々を保護の対象としてだけでなく、将来の“開発の担い手”ととらえ、人々が自ら脅威に対処できる能力を伸ばせるように、個人・組織・社会全体のそれぞれのレベルで能力強化に取り組む。

多様な脅威に対抗できる強靱な社会（システム）の実現に貢献すること

さまざまな脅威による被害をできるだけ抑えるため、危機の発生を予防し、危機が起きたときに対処できるシステムを整え、強靱な社会を創る。

### おもな手法（アプローチ）

脆弱層の視点に立った協力を

“命、暮らし、尊厳”を守る視点で、最も厳しい脅威から順に、人々が直面している危機、あるいは、危機に晒される可能性が高い人々に着目する。国単位だけでなく、脅威に晒された人々の課題解決のための協力を考えていく。

予防の重視を

防災、保健・衛生、紛争などあらゆる分野で“予防”の考え方を重視する。開発はつねに右肩上がりでは進まないで、さまざまな脅威によって人々の状況が悪化する可能性（ダウンサイドリスク）を理解し、事前の予防を重視する。

保護と能力強化を組み合わせる

政府が人々をさまざまな脅威から“保護”すると同時に、人々が自ら問題を解決していけるよう、地域社会・人々の“能力強化”を組み合わせる。中央・地方政府と地域社会・住民の関係を築き、自由と尊厳が守られる社会を目指す。

マルチセクター・マルチアクターで取り組む

人々を取り巻く多様な脅威は密接につながっているため、貧困・保健・衛生・教育等の分野ごとにばらばらの対応ではなく、分野を超えた取り組みが必要になる。そのためにそれぞれに得意分野をもつ多様なアクターとの連携が求められる。

新しい課題には新しい解決方法を

途上国の人々への新しい脅威が生まれる一方、新しい解決方法も生まれている。ICT（情報通信技術）の活用等によるイノベーションや、新しいパートナーとの協力を積極的に活用して課題を解決していく。

予防のための人づくり・仕組みづくり

人間の安全保障の実現のために

### 11の行動指針

一人ひとりの命、暮らし、尊厳を守り、人間の安全保障を実現するため、JICAは二つの指針を掲げている。その一つは「人々が自らの可能性を追求できるように、人・組織・社会の能力強化（エンパワメント）を支援すること。一人ひとりの人間は、脅威から守られるだけの弱い存在ではなく、自分のために、社会のために行動する力をもっている。途上国の人々を支援の対象として見るのではなく、開発の担い手として自ら課題を解決するために必要な能力を伸ばし、個人および所属する組織、コミュニティの可能性を広げるための協力をを行うこと」を重視している。

### JICAの協力の形

このような考え方が、JICAのさまざまな協力の中に形となって表れている。国単位に加えて、そこに住む一人ひとりの人に焦点を当てて最も深刻な脅威から順に見ると、命、暮らし、尊厳を危うくする脅威に晒されている人々が浮き彫りになり、こうした人々の視点に立った協力が求められる。人々の自由と尊厳を守るために、社会全体と国際社会の協力によって、人々を脅威から保護する仕組みをつくり、人・組織・社会が助け合うための能力や制度を強化することが不可欠になる。

人が尊厳をもって生きるためには、十分な栄養や教育、衛生的な環境、一定程度の経済力や社会保障、法の支配の確立など、さまざまな条件が必要だ。貧困、保健、衛生、教育などの複数の課題が、たがいに重なり合って人々の自由や可能性を奪う。したがって人間の安全保障を実現するためには、分野ごとに解決策を考えるのではなく、自由や尊厳を奪うさまざまな要因に対応する複合的な取り組みが必要で、多数の分野に知見があるさまざまな専門家や組織との協力が必要になってくる。

国際社会は協力してSDGs（持続可能な開発目標）の達成に取り組んでいる。JICAはそのなかでも人間の安全保障を指針に、一人ひとりに焦点を当て、自らの力で課題を解決しようとする人々の能力を強化することに協力し、新たな課題を含む多様な脅威に対応できる仕組みづくりに貢献していく。



詳しくはこちらから

